

病害虫発生予察情報 第4号

富山県農林水産総合技術センター所長

7月の病害虫発生予報

【予報の概要】

作物名	病害虫名	発生量	発生時期	作物名	病害虫名	発生量	発生時期
水稲	いもち病（葉いもち）	やや多い	並	野菜	白ねぎのネギアザミウマ	やや少ない	—
	いもち病（穂いもち）	やや多い	並		白ねぎのネギハモグリバエ	並	—
	紋枯病	並	やや遅い		白ねぎのシロイチモジヨトウ	やや少ない	—
	稲こうじ病	やや多い	並		ハスモンヨトウ	やや少ない	並
	斑点米カメムシ類				アブラムシ類	少ない	—
	アカヒゲホソミドリカスミカメ	やや少ない	—	果樹	果樹カメムシ類	並	—
	アカスジカスミカメ	多い	—		リンゴの輪紋病	並	並
	トゲシラホシカメムシ	やや少ない	—		リンゴの褐斑病	やや多い	—
	ニカメイガ（第2世代）	並	並		リンゴのキンモンホソガ	並	—
	ツマグロヨコバイ	やや少ない	—		リンゴのハダニ類	並	—
	ヒメトビウンカ	並	—		ニホンナシの黒星病	やや多い	—
	セジロウンカ	やや少ない	早い		ニホンナシの輪紋病	並	並
イネアオムシ	少ない	—	ニホンナシのナシヒメシンクイ		並	—	
イナゴ類	やや少ない	—	ニホンナシのハダニ類		並	—	
大豆	葉焼病	やや多い	並		ブドウのべと病	やや多い	—
	ウコンノメイガ	やや多い	並	カキ（三社）のフジコナカイガラムシ	やや少ない	—	
	ハスモンヨトウ	やや少ない	並	モモの灰星病	並	—	
	フタスジヒメハムシ	少ない	—	モモのせん孔細菌病	やや多い	—	
	アブラムシ類	少ない	—	花き	きくの白さび病	少ない	—
野菜	白ねぎのさび病	少ない	—		きくのハダニ類	やや少ない	—
	白ねぎの黒斑病・葉枯病	やや少ない	—		アブラムシ類	少ない	—
	白ねぎの軟腐病	やや多い	—		タバコガ類	並～やや少ない	—

富山県農林水産総合技術センター 農業研究所 病理昆虫課
 TEL 076-429-2111 FAX 076-429-7974
 情報参考 URL
<http://www.pref.toyama.jp/branches/1661/index.html>

I 水 稻

1 いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・7月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・放置されている補植苗は、速やかに抜き取り処分する。
- ・BLASTAM情報（農業研究所ホームページ）をもとに、ほ場観察を励行し、早期発見・早期防除に努める。なお、平年の初発確認日は7月10日である。
- ・防除指針 28～29 ページ参照

表 6月のBLASTAM判定結果

月日	朝日	魚津	上市	富山	秋ヶ島	八尾	伏木	氷見	砺波	南砺高宮
6月14日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
6月15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月21日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月23日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月24日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
6月25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月26日	—	—	—	—	—	4	—	—	●	—
6月27日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
6月28日	●	—	—	—	—	—	●	—	—	—
6月29日	—	—	●	—	—	—	—	—	—	—
6月30日	●	—	●	—	—	—	—	—	—	—

●好適条件 1～4 準好適条件 —好適条件なし

2 いもち病（穂いもち）

(1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：並

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・7月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・防除指針 30～31 ページ参照

3 紋枯病

- (1) 予報内容 発 生 量：並
 発生時期：遅い
- (2) 予報の根拠
- ・前年の発生量は少なかったが、本年7月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されている。
- 【遅発要因】
- ・現在、確認はされていない（平年の初発確認日は6月22日）。
- (3) 防除対策
- ・防除指針 27～28 ページ参照

4 稲こうじ病

- (1) 予報内容 発 生 量：やや多い
 発生時期：並
- (2) 予報の根拠
- 【多発要因】
- ・7月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されている。
- (3) 防除対策
- ・前年に発生が多かったほ場では発生リスクが高いため防除を徹底する。
 - ・防除指針 33ページ参照

5 斑点米カメムシ類（アカヒゲホソミドリカスミカメ）

- (1) 予報内容 発 生 量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
- 【少発要因】
- ・6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は1.9頭で、平年（3.2頭）より少なかった。
- (3) 防除対策
- ・斑点米カメムシ類の繁殖を抑えるため、7月上旬の畦畔および雑草地の草刈りを徹底する。
 - ・イネ科雑草の穂が斑点米カメムシ類の好適な餌となるので、草刈りの後も穂が出ないように管理する。やむをえず穂が出ている雑草を刈る場合は、本田薬剤防除の直前に行う。
 - ・斑点米カメムシ類は水田内のヒエ、ホタルイなどの雑草を好むので、水田内の除草管理を徹底する。
 - ・てんたかく等の早生品種は、穂揃期と傾穂期の2回の基本防除を徹底する。なお、今年度は草刈運動期間終了時と早生品種の出穂期の間隔が短く、ほ場へのカメムシ類の飛び込みが懸念されるため、穂揃期防除は遅れずに実施する。
 - ・コシヒカリ等の中生品種および晩生品種では、穂揃期の防除を徹底する。
 - ・防除の際には、畦畔にも薬剤がかかるようにする。
 - ・近隣に雑草地や麦あとと不作付地がある水田においては、斑点米カメムシ類の発生が多く

なる場合があるので防除を徹底する。

- ・割刈の発生が多いと予想される場合や散布後も水田内に斑点米カメムシ類が認められる場合は、追加の防除を実施する。
- ・防除指針 40～42ページ参照

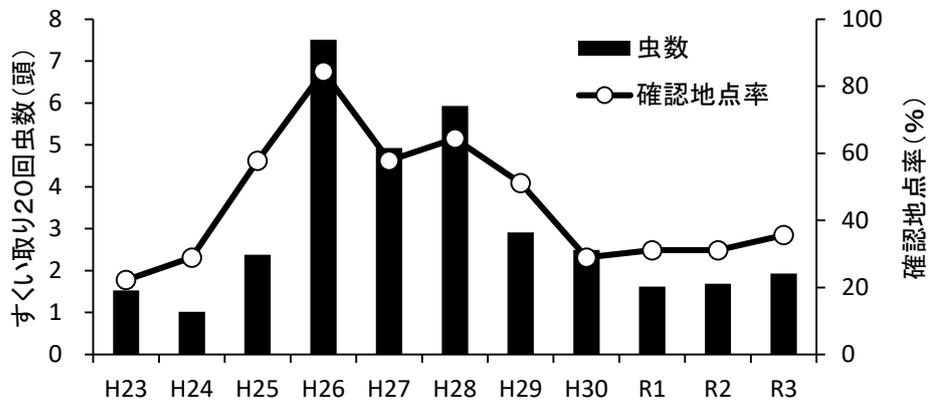


図1 アカヒゲホソミドリカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

6 斑点米カメムシ類（アカスジカスミカメ）

(1) 予報内容 発生量：多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は3.6頭で、平年（2.2頭）より多かった。

(3) 防除対策

- ・アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・防除指針 40～42ページ参照

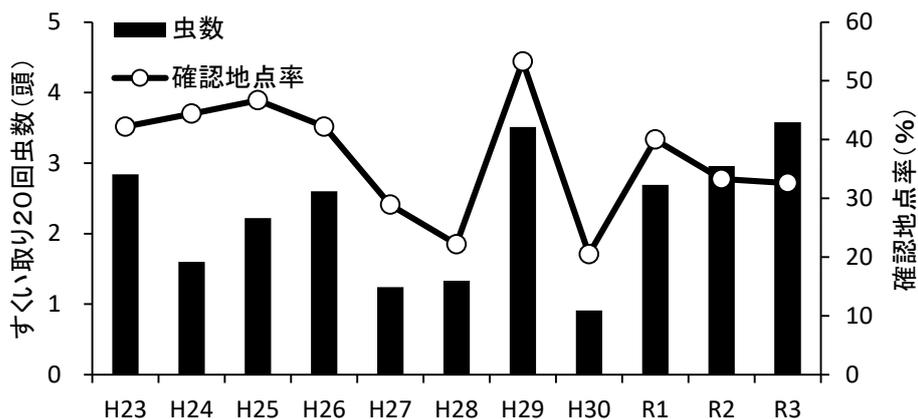


図2 アカスジカスミカメの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

7 斑点米カメムシ類（トゲシラホシカメムシ）

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・6月20日調査の畦畔・雑草地のすくい取り20回虫数は0.0頭で、平年（0.1頭）よりやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・アカヒゲホソミドリカスミカメの防除対策に準ずる。
- ・防除指針 40～42ページ参照

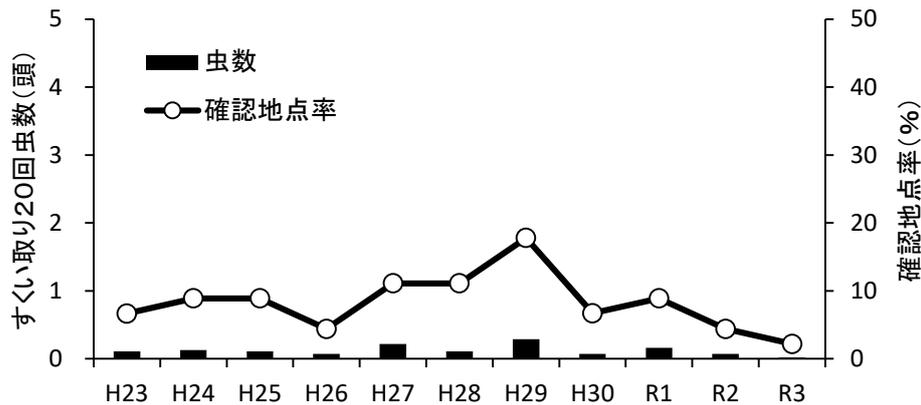


図3 トゲシラホシカメムシの畦畔・雑草地すくい取り状況年次推移（6月20日調査）

8 ニカメイガ（第2世代）

- (1) 予報内容 発生量：並（局部多い）
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

- ・6月20日調査の被害株率は1.3%で、平年（0.4%）より高かったが、局部的であった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 35～36ページ参照

9 ツマグロヨコバイ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・6月20日調査のすくい取り20回虫数は0.0頭で、平年（0.1頭）よりやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 37ページ参照

10 ヒメトビウンカ

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠

- ・6月20日調査のすくい取り20回虫数は0.6頭で、平年（0.6頭）並であった。

- (3) 防除対策
・防除指針 38～39 ページ参照

1 1 セジロウンカ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
発生時期：早い
- (2) 予報の根拠
【少発要因】
・6月20日調査のすくい取り20回虫数は0頭で、平年(0.1頭)よりやや少なかった。
【早発要因】
・初発日は6月7日で、平年(6月27日)より早かった。
- (3) 防除対策
・防除指針 38～39 ページ参照

1 2 イネアオムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠
【少発要因】
・6月20日調査のすくい取り20回虫数は0頭で、平年(0.2頭)より少なかった。
- (3) 防除対策
・防除指針 39 ページ参照

1 3 イナゴ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠
【少発要因】
・6月20日調査のすくい取り20回虫数は1.3頭で、平年(3.7頭)よりやや少なかった。
- (3) 防除対策
・防除指針 36 ページ参照

II 大豆

1 葉焼病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠
【多発要因】
・7月の降水量は平年並か多いと予想されている。
- (3) 防除対策
・防除指針 53 ページ参照

2 ウコンノメイガ

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・7月の気象は平年に比べ曇りや雨の日が多いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・播種時期が早く、生育が旺盛なほ場や葉色が濃いほ場で多発するので注意する。
- ・防除指針 53 ページ参照

3 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
発生時期：並

- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる6月1半旬～5半旬の誘殺数は26.8頭で、平年（39.6頭）より少なかった。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 55 ページ参照

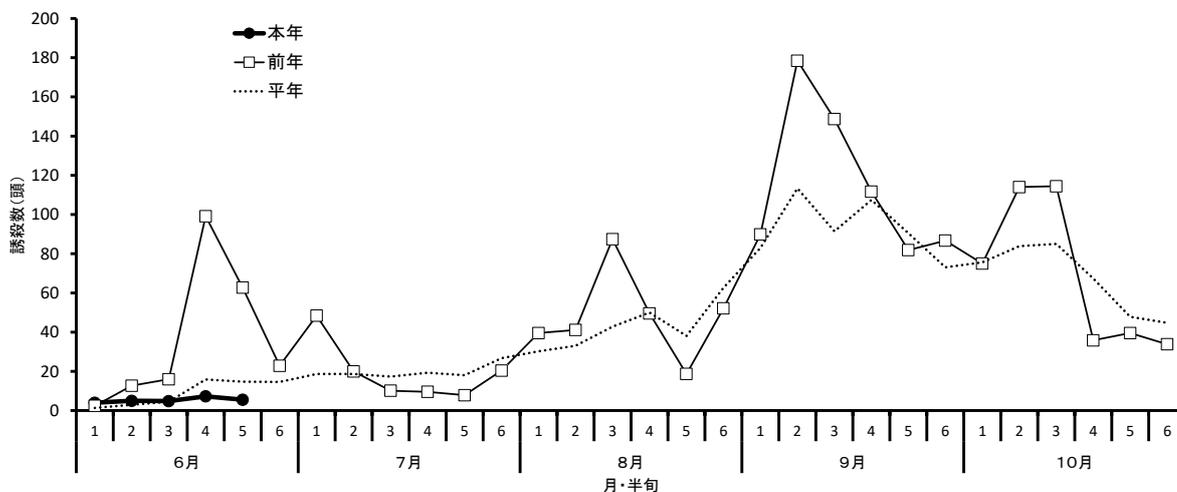


図4 フェロモントラップによるハスモンヨトウ誘殺数の推移

4 フタスジヒメハムシ

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・6月25日調査の被害株率は1.1%で、平年（4.9%）より低かった。
- ・種子処理剤の普及が進んでいる。

- (3) 防除対策

- ・防除指針 55 ページ参照

5 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 6月25日調査の寄生株率は0%で、平年（0.0%）並に低かった。
- ・ 種子処理剤の普及が進んでいる。

- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 54 ページ参照

Ⅲ 野 菜

1 白ねぎのさび病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 6月25日調査の発病株率は1.6%で、平年（15.0%）より低かった。

- (3) 防除対策
 - ・ 発生を確認したら防除を徹底する。
 - ・ 防除指針 97 ページ参照

2 白ねぎの黒斑病・葉枯病

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 6月25日調査の発病株率は0%で、平年（1.3%）よりやや低かった。

- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 98 ページ参照

3 白ねぎの軟腐病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・ 7月の降水量は平年並か多いと予想されている。

- (3) 防除対策
 - ・ 防除指針 98 ページ参照

4 白ねぎのネギアザミウマ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・ 6月25日調査の被害株率は35.2%で、平年（52.4%）よりやや低かった。

- (3) 防除対策
・防除指針 99～100 ページ参照

5 白ねぎのネギハモグリバエ

- (1) 予報内容 発生量：並
(2) 予報の根拠
・6月25日調査の被害株率は13.6%で、平年（16.4%）並であった。
(3) 防除対策
・防除指針 99 ページ参照

6 白ねぎのシロイチモジヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
(2) 予報の根拠
【少発要因】
・フェロモントラップによる6月3半旬～5半旬の誘殺数は6.6頭で、平年（10.4頭）よりやや少なかった。
(3) 防除対策
・防除指針 100 ページ参照

7 ハスモンヨトウ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
発生時期：並
(2) 予報の根拠
【少発要因】
・フェロモントラップによる6月1半旬～5半旬の誘殺数は26.8頭で、平年（39.6頭）より少なかった。
(3) 防除対策
・防除指針 66～135 ページのハスモンヨトウの項を参照

8 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠
【少発要因】
・黄色水盤への有翅虫の6月1半旬～5半旬の誘殺数は142.0頭で、平年（459.9頭）より少なかった。
(3) 防除対策
・防除指針 66～135ページのアブラムシ類の項を参照

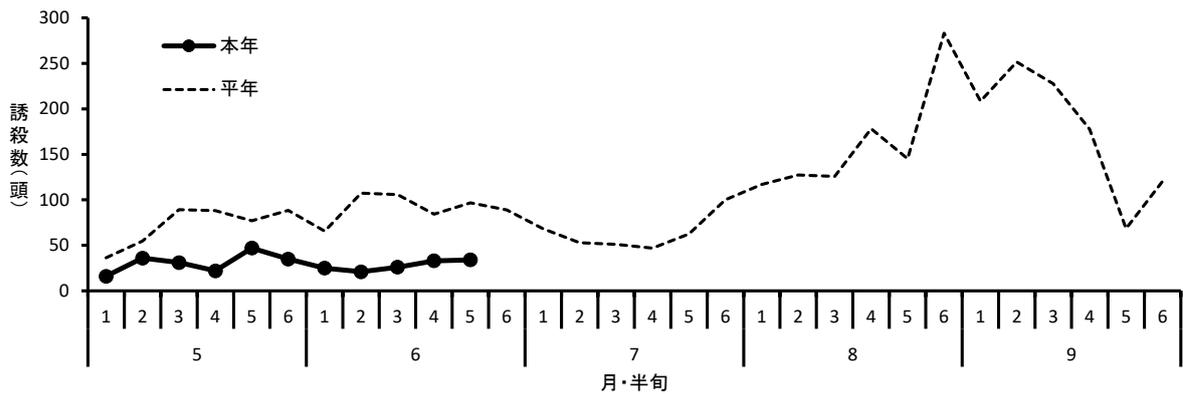


図5 黄色水盤によるアブラムシ類誘殺数の推移

IV 果樹

1 果樹のカメムシ類

(1) 予報内容 発生量：並

(2) 予報の根拠

・フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬のチャバネアオカメムシの誘殺数は、8.1頭で平年（14.9頭）並だった。

(3) 防除対策

・カメムシ類の発生状況に注意し、発生が見られる場合は効果の高い薬剤（ネオニコチノイド剤、有機リン剤、合成ピレスロイド剤等）を散布する。

なお、合成ピレスロイド剤は天敵等に対する影響が強く、ハダニ類の発生を助長するので最小限の使用にとどめる。

・防除指針：リンゴ 139, 144～145, 147～148 ページ、ニホンナシ 150, 155, 158～159 ページ、カキ 166, 169～170 ページ、モモ 172～173, 175 ページ参照

2 リンゴの輪紋病

(1) 予報内容 発生量：並

発生時期：並

(2) 予報の根拠

・前年の発生量は平年より少なかったが、7月の降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除対策

・梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が開きすぎないように注意する。

・防除指針：139, 142, 146～147ページ参照

3 リンゴの褐斑病

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

【多発要因】

・前年の発生量は平年よりやや多く、7月の降水量は平年並か多いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・梅雨期間中は重要防除時期なので、薬剤の散布間隔が開きすぎないように注意する
- ・前年に発生が多かった園地や発生が懸念される園地、すでに発生が確認されている園地では、薬剤の散布量を十分に確保する。
- ・前年に発生が多かった園地やすでに発生が確認されている園地では、ユニックス顆粒水和剤47 (2,000倍) 又はオンリーワンフロアブル (2,000倍) にオーソサイド水和剤80 (800倍) を加用し、散布する。
- ・防除指針：139, 141～142, 146～147ページ参照

4 リンゴのキンモンホソガ

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

・フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬の誘殺数は、3.0頭で平年 (3.4頭) 並だった。

(3) 防除対策

- ・7月上旬 (第2世代成虫の羽化最盛期) は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針：139, 143～145, 147～148ページ参照

5 リンゴのハダニ類 (ナミハダニ)

(1) 予報内容 発 生 量：並

(2) 予報の根拠

・7月の気温はほぼ平年並と予想されている。

(3) 防除対策

- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・恒常的に発生する園地では、ミヤコカブリダニ剤 (スパイカルプラス) を1～5パック/樹設置する。
- ・防除指針：139, 143, 145～146ページ参照

6 ニホンナシの黒星病

(1) 予報内容 発 生 量：やや多い

(2) 予報の根拠

- ・殺ダニ剤の散布前には草刈りを行い、ハダニ類が樹上へ移動した後に散布する。
- ・高温・乾燥が続くと急増するので、発生状況に注意し、適期防除に努める。
- ・防除指針：150, 156, 158～159ページ参照

10 ブドウのべと病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・7月の降水量は平年並か多いと予想されている。

- (3) 防除対策

- ・り病した葉や果房などは、見つけ次第除去し、処分する。
- ・7月上旬は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針：161～164ページ参照

11 カキ（三社）のフジコナカイガラムシ

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
- (2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる5月4半旬～6月3半旬の誘殺数は、340.5頭で平年(1,141.6頭)よりやや少なかった。

- (3) 防除対策

- ・7月上旬（第1世代ふ化幼虫発生期）は重要防除時期なので、適期防除に努める。
- ・防除指針：166～167, 169～170ページ参照

12 モモの灰星病

- (1) 予報内容 発生量：並
- (2) 予報の根拠

- ・前年の発生量は平年並だった。

- (3) 防除対策

- ・り病した果実は、見つけ次第除去し、処分する。
- ・除袋後にはDMI剤を散布する。ただし、耐性菌出現防止のため、年総使用回数は原則2回以内とする。
- ・防除指針：172, 174～175ページ参照

13 モモのせん孔細菌病

- (1) 予報内容 発生量：やや多い
- (2) 予報の根拠

【多発要因】

- ・これまでの発生量は平年並～やや多かった。
- ・7月の降水量は平年並か高いと予想されている。

(3) 防除対策

- ・夏型枝病斑は、見つけ次第せん除し、処分する。
- ・防除指針：172～173, 175ページ参照

V 花き

1 きくの白さび病

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・6月25日調査の発病株率は0%で平年(0.9%)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 192 ページ参照

2 きくのハダニ類

- (1) 予報内容 発生量：やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・6月25日調査の1葉虫数は0頭で平年(0.1頭)よりやや少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 195～196 ページ参照

3 アブラムシ類

- (1) 予報内容 発生量：少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・黄色水盤への有翅虫の6月1半旬～5半旬の合計誘殺数は142.0頭で、平年(459.9頭)より少なかった。

(3) 防除対策

- ・防除指針 194～212ページのアブラムシ類の項を参照

4 タバコガ類

- (1) 予報内容 発生量：並～やや少ない
(2) 予報の根拠

【少発要因】

- ・フェロモントラップによる6月3半旬～5半旬の誘殺数はタバコガが2.0頭で、平年(6.2頭)よりやや少なく、オオタバコガは2.7頭で、平年(2.6頭)並であった。

(3) 防除対策

・防除指針 198～216 ページのオオタバコガ、タバコガの項を参照

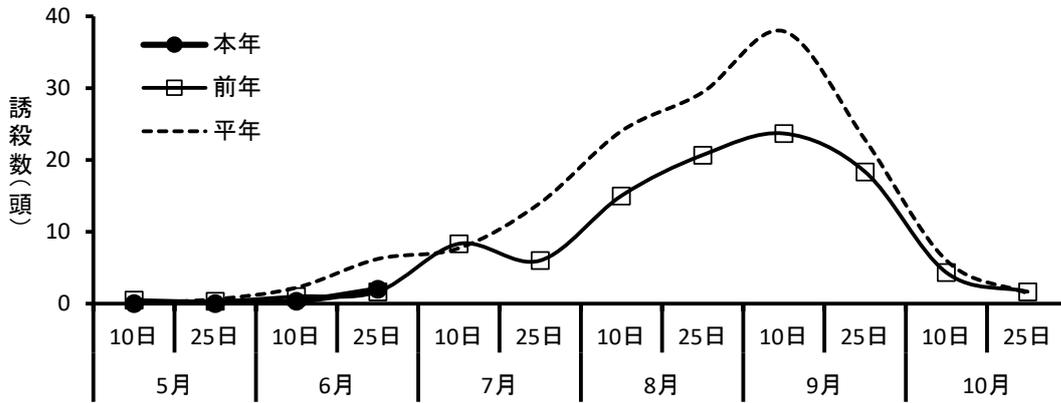


図6 フェロモントラップによるタバコガの誘殺数の推移

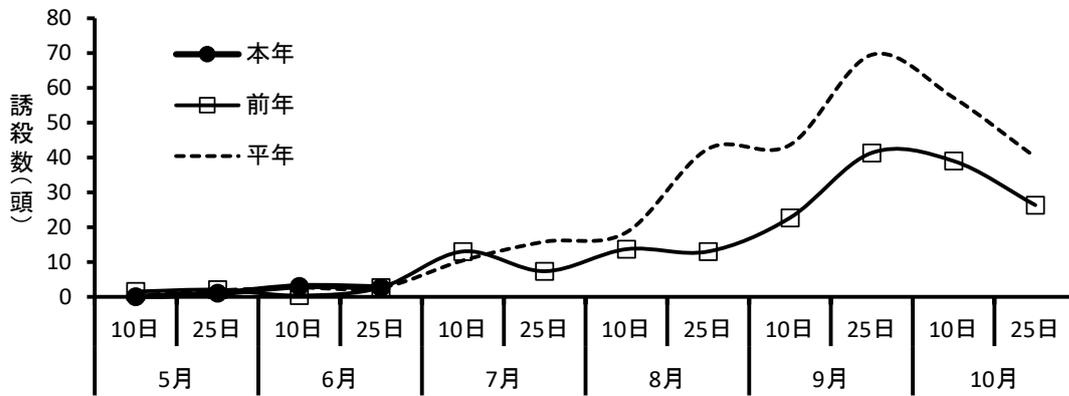


図7 フェロモントラップによるオオタバコガの誘殺数の推移

令和3年度富山県農薬危害防止運動

6/15~9/14

農薬は 周りに配慮し 正しく使用

農薬を知る。理解する。適正に使う。

1 住宅地周辺で散布する時は事前に周知し、飛散防止を徹底

農薬の飛散は、人の健康などに悪影響を招く恐れがあるので、住宅地周辺での農薬散布にあたっては、周辺への飛散防止に十分配慮しましょう。

2 使用前には必ずラベルで作物名・使用方法等を確認

農薬の使用にあたっては、ラベル（説明書）に記載されている作物名・使用方法等や使用上の注意事項を必ず確認しましょう。

3 農薬は適切に保管・管理し、使用した場合は必ず記帳

農薬は法律によって取り扱いが定められ、適切な保管管理が求められています。また、農薬使用に係る履歴がわかるように記帳やそれら記録簿の保管が必要となっています。

4 農薬を調整・散布する時は、マスクなど防護装備を正しく着用

農薬による事故の多くは、マスクや防除衣などの装備不備や体調が万全でないまま作業を行うなど作業者の不注意により発生しています。

特に、土壌くん蒸剤を使用する場合は、防護マスク等の防護装備の着用、施用直後のビニール等での被覆を確実にし、安全確保を徹底することが大切です。

北陸地方 3か月予報
 (予報期間 7月から9月)

6月25日
 新潟地方气象台 発表

<予想される向こう3か月の天候>

向こう3か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

この期間の平均気温は、高い確率50%です。

7月 平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。
 降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。

8月 平年と同様に晴れの日が多いでしょう。
 気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

9月 天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が多いでしょう。
 気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

		07月~09月			
		低い(少ない)	平年並	高い(多い)	
気温	北陸地方	07月~09月	20	30	50
		07月	30	30	40
		08月	20	40	40
		09月	20	40	40
降水量	北陸地方	07月~09月	30	30	40
		07月	20	40	40
		08月	30	40	30
		09月	30	40	30

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)